

週刊 タバコの正体

喫煙に関する意識調査

POINT 01 **91.3%**が、営業担当者からタバコの臭いがすると「不快に感じる」と回答

POINT 02 **約8割**から、営業担当者からタバコの臭いがすると「購買意欲が下がる」との声

POINT 03 飲食店で料理人からタバコの臭いがした場合、料理の味に関係なく「再来店したくない」人は、**約9割**に上る

「なんでも統計局 by PR TIMES」サイトから

SUMMARY

この表は、営業を受ける立場にあるタバコを吸わない会社員149名を対象に、ある企業が喫煙に関する意識を調査した結果です。

商談の場でタバコのニオイがするで、不快に感じ購買意欲まで下がるという人が圧倒的が多いのです。そして、飲食店においても料理人がタバコくさいと、ほとんどの人は二度と来たくないと思うという結果になっています。営業する商品の特長や提供する料理の味に関係なく、「買いたくない」「来たくない」と思わせてしまうのですから、とても切なくかわいそうですね。

昨年、厚生労働省が発表した成人の喫煙率は男性24%、女性6%です。だから現在の社会人の大多数はタバコを吸いません。と言う事はこの意識調査の条件のように、営業を受ける多くの会社員はタバコを吸わない人である確率が高いわけです。そして、飲食店に訪れる人の多くもタバコを吸いません。つまり、タバコのニオイがするだけで営業成績が低下する確率が高いわけです。

じつは、かわいそうな事に常習的にタバコを吸っている喫煙者は、タバコのニオイに対する嗅覚が麻痺し自分がタバコのニオイをさせている事を実感できないのです。そのうえ初対面の人に「あなた、タバコくさいですよ」なんて指摘する人はいませんから、自分の頑張りとは無関係に気がつかないうちに評価が下がる、本当に気の毒な事になってしまうのです。

将来こんな状況にならないために、タバコに手を出してはいけません。